

【原 著】

「2015年度教師力養成講座」の概要
—実践的指導力を有する教師の育成のために—

武藤 幹夫 河内 智美 小林 清太郎

Outline of "A Training Course to Cultivate the Abilities Required for Teachers - Academic year 2015"
To Cultivate the Practical Leadership Required for Teachers

Mikio BUTO, Satomi KOCHI, Seitaro KOBAYASHI

2016

岡山大学教師教育開発センター紀要 第6号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.6, March 2016

原 著

「2015年度教師力養成講座」の概要

—実践的指導力を有する教師の育成のために—

武藤 幹夫^{*1} 河内 智美^{*1} 小林 清太郎^{*1}

本年度の「教師力養成講座」は、昨年と同様に7回の開催を計画した。8月末までに4回、12～2月に3回を実施する。本講座は、学校現場で今日的な課題に対して実践されている優れた取組を学生に伝えることで、学校現場へ出ることへの不安を取り除き教師という仕事への意欲を高めるとともに、学生の実践的指導力の向上を図ることをねらいとしている。平成21年に開始し、参加状況や受講者の意見を参考にしてテーマ設定や講師選定などに工夫を加えながら、今年で7年目になる。本年度実施している教師力養成講座の概要を報告し、併せて「教師力養成講座」の今後の展開の可能性についてもふれる。

キーワード：現場で実践されている優れた取組、実践的指導力の向上、今後の展開の可能性

※1 岡山大学教師教育開発センター

I はじめに

いじめ・不登校など生徒指導上の課題や特別支援教育への対応など、子どもを取り巻く環境が複雑化・困難化するとともに、家庭の貧困問題への対応や地域活動への参加など学校に求められる役割も拡大してきている。一方、教育現場では教師の大量退職の時代を迎え、新規採用教員数が年3万人を超える状況が続いている。今後もこの傾向は続き、全国の小学校教員の需要のピークは平成29年で、全国の中学校教員の需要のピークは平成32年であると予測されている。(広島大学 山崎弘敏教授 「教育課程」2015年12月号) こうした中で、学校の教育力・組織力と教職員の実践的指導力の向上が一層求められている。

教員採用試験に合格し教師として4月から教壇に立つことになった学生には、めざしてきた仕事に就ける喜びとともに、指導にかかわるいろいろな不安がある。それは、授業、学級経営、生徒指導、保護者との関係など教師の仕事全般にわたっての不安である。学生に話を聞いてみると、初めて経験することへの不安のほかに、マスコミ等を通して目や耳にする学校や教師に関するマイナス面の情報が不安に拍車を掛けていることがわかる。学生が得る情報は、不登校やいじめ、校内暴力、児童生徒の自殺、保護者対応の難しさ、教員の忙しさなどにかかわって、学校教育の難しさや厳しさを強調している報道がき

わめて多い。一方で全国には、その学校の現状に合わせた指導を進め、大きな成果を上げている実践はたくさんある。岡山県下の学校においても、同様であり、その中核を担っている優れた教師もたくさんいる。しかし、そうした取組が学生に情報として伝わる機会はとても少ないのが現状である。

そこで、教育現場で優れた実践を進めている教師や教育委員会職員に講師を依頼し、学校や地域で行われている取組の概要やその基盤となっている教育の理念や指導の在り方を、学生に直接話していただく場として「教師力養成講座」を開催している。学校現場で働く教師から子どもや教師の具体的な取組について直接話を聞くことで、学生は教師という仕事の魅力とやり甲斐を知るとともに、持っていた不安を和らげることができる。さらに、子どもが生き生きと学ぶ姿や教師が指導を通して成長していく姿を知ること、自分がこれから目指していく「育てたい子ども像」や「求める教師像」をより明確に描いていく助けにもなる。

II 2015年度の実践

1 テーマの設定

テーマについては、昨年と同様に二つの観点をもとに設定している。

A：教師を目指す学生が不安に思っている教育課題とそれに対する学校現場での取組

B：学生に学んでおいて欲しい教育の動き

教師力養成講座に参加した学生からは毎回アンケートを通して、講座に対する要望を汲み取るようにしている。本年度の参加学生対象アンケート（第1回～第4回）の「取り上げて欲しいテーマ」の記述にも、たくさんのテーマが記述されている。具体的な内容までは読み取れないが、キーワードを整理してみると学生の要望を推測することができる。内容的な重複もあるが、そのキーワードを挙げてみる。（数字は、挙げられた回数）

- ・学級経営2，学級づくり2，子どもの人間関係づくり，学級開き，教師と子どもの人間関係，コミュニケーション2，コーディネート力，安心できるクラスづくり
- ・教科指導，学力差への対応，学習意欲，分かりやすい授業，伝わる授業，授業づくり（教材研究）2，学力向上，授業力
- ・生徒指導，いじめ・不登校などの問題に対する取組3，叱ること・ほめること
- ・特別支援教育，発達障害をもつ子どもの支援
- ・保護者とのかかわり方，保護者対応，保護者との連携
- ・部活動
- ・教師のメンタルヘルス，体罰，実践的指導力の向上
- ・地域と学校の連携，専門機関との連携
- ・高等学校での取組2
- ・英語教育，道徳教育，国際社会を生きる，性教育，キャリア教育2，命の授業，豊かな心を育てる指導，学校保健

こうした学生の思いの中には、観点Bにかかわる内容が重なっているものも少なくない。観点Bとしては、「学級づくり」「授業づくり」のほか「道徳の教科化」「学校間連携・地域連携」「特別支援教育」などを考えている。二つの観点をもとに、これから求められる教師の力を描いて、テーマを設定し講師の選定を進めた。

2 講師の選定

講師については、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会の協力を得て選定している。教育現場で指導や対応について優れた実践をしておられる人材を、学校や教育委員会事務局で勤務する校長、教頭、教諭、指導主事等の中から依頼している。平日に来ていただくため、現在は岡山市とその周辺の学校を中

心をお願いしている。

3 開催・運営

基本的な運営スケジュールは、昨年までのものを引き継いでいる。

<基本的な運営スケジュール>

- | | |
|--------------------------|-----|
| (1) 開会（挨拶・講師紹介） | 10分 |
| (2) 大学教員によるテーマの意義についての講話 | 15分 |
| (3) 講師による基調提案 | 40分 |
| (4) グループ討議・協同活動 | 20分 |
| (5) 討議・活動内容の発表と共有 | 15分 |
| (6) 講師によるまとめ・教職相談室によるまとめ | 25分 |
| (7) 参加者各自のまとめ | 5分 |

○(2)の大学教員による講話は、学生がその意義を十分に理解している場合や(4)のまとめで補足できる場合には割愛している。

○(3)の基調提案では、テーマについての基本的な考え方、学校での取組の概要、成果と課題などについての講師からの講話を行っている。話す相手の活動を想定することで自分の伝えたいことをより確かに理解してもらうことは、授業の進め方のモデルとなるものとして、学生にはたくさん体験しておいて欲しいと考えている。本年度は、講師の方々が「基調提案」の中にも参加者の短い意見交換の時間や小活動を組み込むなどの工夫をしてくださり、一方的な説明だけに終わらない時間にする事ができた。

○(4)の学生のグループ活動については、参加者アンケートの中に、「有意義な時間である」「もっと時間をとってほしい」などの意見が多く見られた。そこで、基調提案を聞いて学生同士が意見交換をしたり協力して活動したりする場をできるだけ充実させる方向で進めている。本年度は、基調提案をもとに、単元等の指導計画づくり、情報機器とのかかわり方の指導計画づくり、学級目標づくり、児童・生徒への伝わる工夫をした講話づくりなど、学校現場に活用できる具体的な活動が行われた。

○(5)の討論の発表と共有の時間では、グループの数によって発表時間を制限することで、要領よく伝える発表を意識できるようにしている。まとまった発表をするときには、時間的な問題ですべてのグループからの発表ができないこともある。

本年度は、児童・生徒への伝え方の工夫や計画してみたい指導などについて、学生らしさが生かされた発表が多く見られた。自分たちで活動計画を創り出すことや他のグループの計画と比べながら自分を見つめ直すよい機会になっていると感じる。アンケートの記述からも、グループ活動での参加者の充実感を感じることができる。

- (6)の講師によるまとめは、参加者の発表をもとに柔軟に設定している。本年度は、発表内容への講師からの評価や補足、発表の中に含まれる質問への回答、学校で実際の行われている取組の紹介、教師を目指す学生への期待と励ましのメッセージ伝達などが行われた。

4 2015年度の「教師力養成講座」

本年度実施した講座の概要は、[表1]のとおりである。本年度の講座のテーマについては、受講者のアンケートを参考にして「教師を目指す学生が不安に思っている教育課題とそれに対する学校現場での取組」として、「情報教育(第4回)」「生徒指導(第6回)」「授業づくり(第7回)」を設定した。また、「学生に学んでおいて欲しいこと教育の動き」として、「教師の心得(第1回)」「人権教育(第2回)」「新任教師の戸惑い(第3回)」「地域連携(第5回)」を設定した。参考までに、これまでの本講座の実施記録も[表2]に示しておく。

[表1] 2015年度の「教師力養成講座」

実施日	回	テーマ	講師
2015年 5月 27日	第1回	「キーワードをもとに 教師の心得を考える」	岡山市立中学校 校長
2015年 6月 3日	第2回	「子どもたちの笑顔がいっぱいの学校づくり」	瀬戸内市立小学校 校長
2015年 7月 22日	第3回	「教師を目指すみなさんに伝えたいこと」	岡山市立小学校 校長
2015年 7月 29日	第4回	「子どもの情報機器へのかかわり方を考える」	赤磐市立中学校 校長
2015年 12月 16日	第5回	「学校の教育力を高める『連携』の進め方」	岡山県立高等学校 校長
2016年 1月 13日	第6回	「市立中学校と生徒指導」	倉敷市立中学校 教頭
2016年 2月 10日	第7回	「魅力的な授業とは」	岡山市立小学校 教諭

[表2] 昨年度までに実施した「教師力養成講座」

実施日	回	テーマ	講師
2014年 5月 21日	第1回	「どの子も参加でき、どの子もわかる授業」	赤磐市立小学校 校長
2014年 6月 25日	第2回	「小中高等学校におけるキャリア教育」	岡山県立高等学校 校長
2014年 7月 9日	第3回	「子どもの何を褒め、何を叱らなければならないのか」	岡山市立小学校 教諭
2014年 8月 6日	第4回	「多くの教師は、教師になって揺らぐ」	大津市立小学校 教諭
2014年 12月 17日	第5回	「ICTを活用した授業づくり」	岡山市立小学校 校長
2015年 1月 14日	第6回	「子どもたちにとって魅力的な授業」をどのように創るか」	岡山大学教育学部附属小学校 教諭
2015年 2月 18日	第7回	「今、学校現場で、教師に何が求められているのか」	岡山市立小学校 教諭

実施日	回	テーマ	講師
2013年 5月 22日	第1回	「体罰」を考える	倉敷市教育委員会
2013年 6月 26日	第2回	「いじめ・不登校」を考える 「原因や背景」	岡山市立中学校 校長
2013年 7月 10日	第3回	「いじめ・不登校」を考える 「対応と未然防止」	岡山市立中学校 校長
2013年 8月 6日	第4回	「保護者のクレーム」を考える	岡山市教育委員会
2013年 12月 4日	第5回	「子どもにとって魅力のある学級」をどう創るか	赤磐市立小学校指導 教諭
2013年 12月 11日	第6回	「子どもにとって魅力のある授業」をどう創るか	岡山大学教育学部附属小学校 教諭
2014年 1月 15日	第7回	「子どもの問題行動」にどう対応したらよいか	岡山市教育委員会

実施日	回	テーマ	講師
2012年 5月 30日	第1回	「子どもの特性を理解した生徒指導」	岡山市立中学校 教頭
2012年 6月 13日	第2回	「NIEの取り組み」	岡山市立小学校 教諭
2012年 10月 31日	第3回	「外国語活動」	岡山市立小学校 教諭
2012年 11月 28日	第4回	「学級づくり」	岡山市立中学校 教諭
2013年 1月 16日	第5回	「学級びらき」	岡山市立小学校 校長

実施日	回	テーマ	講師
2011年 5月 18日	第1回	「授業で学校を変える」	岡山市立中学校 校長
2011年 6月 29日	第2回	「伝統文化と武道」	岡山市立中学校 教諭
2011年 7月 13日	第3回	「キャリア教育」	岡山県立高等学校 教諭
2011年 10月 5日	第4回	「国語教育における協同学習」	岡山市立中学校 教諭
2011年 11月 2日	第5回	「保護者・地域との連携」	岡山市立小学校 校長
2012年 1月 18日	第6回	「教師力をつけよう」	岡山市立中学校 校長

実施日	回	テーマ	講師
2010年 5月 19日	第1回	「学校における食育推進」	岡山市立小学校 校長
2010年 6月 16日	第2回	「伝え合う力の育成」	岡山市立小学校 校長
2010年 7月 28日	第3回	「情報教育」	岡山市立中学校 校長
2010年 10月 27日	第4回	「外国語教育」	岡山市立中学校 教諭
2010年 12月 1日	第5回	「理数教育の充実」	岡山市立小学校 校長
2011年 1月 12日	第6回	「生徒指導」	教師教育開発センター 准教授

実施日	回	テーマ	講師
2009年 5月 27日	第1回	「子どもたちの生活とケータイの問題」	岡山市立中学校 校長
2009年 6月 24日	第2回	「発達障害など課題を抱えた子どもとどうかかわるか」	岡山市立小学校 校長
2009年 7月 8日	第3回	「いじめ・不登校の問題をどう考えるか」	岡山市立中学校 校長
2009年 10月 14日	第4回	「学校における「評価」について」	岡山市立中学校 校長
2009年 11月 25日	第5回	「道徳教育について」	岡山市立小学校 校長
2010年 1月 27日	第6回	「学校力の向上について」	岡山市立中学校 校長

Ⅲ 学生の満足度と感想

講座の開催にあたっては、次のようなアンケート調査を実施している。アンケートを、「学生の満足度を上げる」「学生の参加者を増やす」という点か

ら考察し、その結果を運営の改善に生かしている。アンケートは、5段階の評価を基本にしたものと自由記述によるものである。

(アンケート項目資料)

- 受講者のこと 「性別」「学年」「所属学部・学科」「受験予定の学校種」
 - 今回の講座
 - ①基調提案（最初のお話）について、どのように感じましたか。
 - ②グループでの話し合いは、活発に行われましたか。
 - ③グループでの話し合い中、あなた自身の発表はhowでしたか。
 - ④グループでの話し合いの時間の長さはhowでしたか。
 - ⑤まとめ（最後のお話）について、どのように感じましたか。
 - ⑥今回の講座で考えたことは、あなたが教師を目指す上で役立つと思いますか。
 - 本講座
 - ⑦次回の講座にも参加したいと思いますか。
 - ・今回の講座の感想や質問など、自由に書いてください。
 - ・次回の講座で取り上げてほしいテーマを書いてください。
 - ・この講座のことを、何で知りましたか。
- ⇒「掲示板」「教職相談室で」「センターHPで」「岡大教職ナビの情報で」「友人から」「その他」

1 学生の満足度

本年度も開催にあたって、4年生全員が受講する講義の開催日に合わせて実施日を設定すること、学生の希望するテーマを生かすこと、参加者の意見交換のために時間を確保することなどに配慮した。

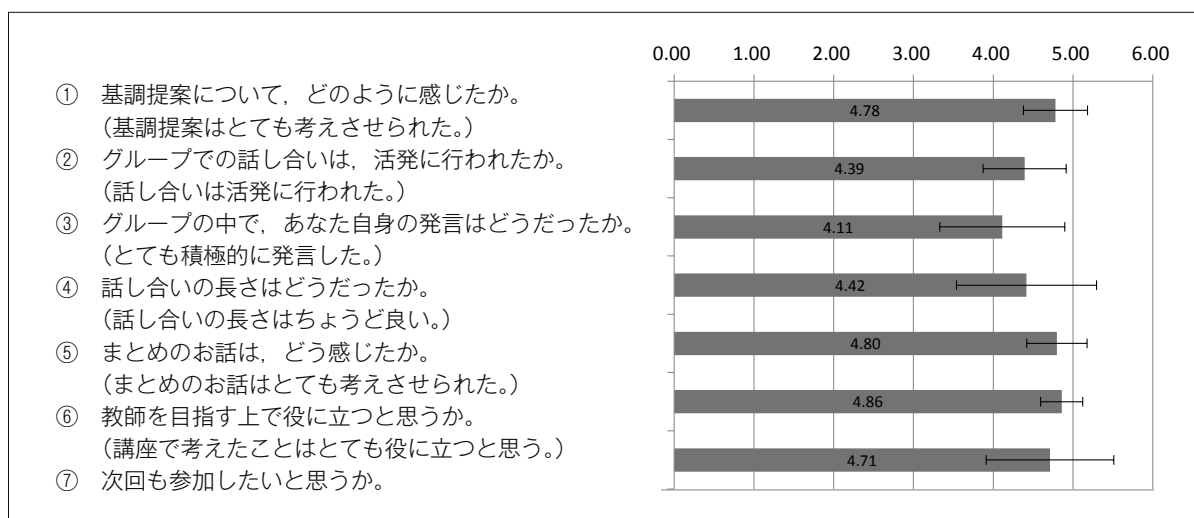
学生の講座に対する満足度は、「図1」[表3]のとおりである。全体として、参加した学生の満足度は高いと言える。特に「基調提案」「まとめ」「教師を目指す上で役立つ」については、4.7（5段階）以上の数値が並び、参加者の高い満足度が講座開設

以降継続している。一方、受講者同士の意見交換への満足度は、「受講者自身の発言」4.11、「活発な話し合い」4.39とやや低くなっている。参加者自身は「もっと積極的に参加できるとよい」という思いがあるようだが、時間的な制約の中で十分に伝えられていない部分もある。しかし、企画した側から見ると、参加者のグループでの活動は活発に行われており、よく考えられた内容の発表がされている。講師の方々からも、「それぞれがしっかり意見を述べて、話し合いが活発にできている」「積極的に問いかけ

に答えてくれるのでやりやすい」「学生がよく勉強している」など、参加者の前向きな姿を評価していただいている。そのことが参加者の実感として感じられるよう、テーマに合わせてグループ協議の進め方をさらに工夫していきたい。

受講した学生の満足度が次回講座への参加意欲の高さに確実につながっていると考えられる。学生の教職に対する意欲を高めることは、本講座の出発点である。学生の思いを十分に捉え講座の運営に生かしていきたい。

【図1】2015年度の受講生満足度 平均値・標準偏差



【表3】「教師力養成講座」参加者アンケートの結果

	2015年度					2015 合計	2014 合計	2013 合計	2012 合計	2011 合計	2010 合計	2009 合計	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)								
参加人数	38	43	46	46	48	221	299	478	118	179	282	274	
①基調提案	平均	4.91	4.83	4.91	4.87	4.43	4.78	4.81	4.88	4.77	4.95	4.85	4.86
	SD	0.28	0.38	0.29	0.34	0.58	0.44	0.41	0.38	0.54	0.21	0.42	0.41
②話し合い	平均	4.51	4.55	4.36	4.33	4.27	4.39	4.48	4.48	4.25	4.40	4.47	4.46
	SD	0.56	0.50	0.71	0.76	0.62	0.65	0.56	0.63	0.39	0.65	0.67	0.57
③発言	平均	4.34	4.28	4.09	3.91	4.02	4.11	4.09	4.10	3.94	3.92	4.11	4.01
	SD	0.87	0.75	0.56	0.84	0.81	0.78	0.76	0.74	0.64	0.78	0.74	0.78
④長さ	平均	4.74	4.68	4.47	4.39	3.91	4.42	4.38	4.27	4.25	4.07	4.30	4.16
	SD	0.82	0.73	0.89	0.98	0.90	0.91	0.86	0.93	1.11	1.10	0.88	0.88
⑤まとめ	平均	4.82	4.87	4.93	4.78	4.60	4.80	4.83	4.88	4.92	4.91	4.89	4.80
	SD	0.39	0.34	0.25	0.55	0.65	0.48	0.41	0.37	0.08	0.35	0.35	0.51
⑥考えたこと	平均	4.94	4.85	4.96	4.96	4.60	4.86	4.91	4.95	4.92	4.97	4.93	4.95
	SD	0.24	0.43	0.21	0.21	0.54	0.38	0.29	0.22	0.08	0.17	0.25	0.21
⑦次回講座	平均	4.72	4.68	4.89	4.76	4.51	4.71	4.73	4.76	4.68	4.84	4.89	4.83
	SD	0.45	0.72	0.32	0.67	0.75	0.62	0.71	0.66	0.66	0.63	0.48	0.61

2 講座受講生のアンケート自由記述

受講生アンケートの自由記述欄に記載された感想や意見を、「講座内容への共感や発見」「講座の運営や雰囲気」「自分が教壇に立つことへの意欲や思い」に分けて整理し、一部を紹介しておく。なお、①②③④⑤は本年度の何回目の講座かを示している。また、記載に際しては、誤字や漢字表記等について最小限の校正をして載せている。

【内容への共感や発見】

①とてもよいお話を聞かせていただきました。バイトで塾の講師をしているのですが、信頼される姿、伝える工夫など、省みる点が沢山ありました。今一度、自分の姿勢を振り返ってみようと思います。ありがとうございました。

①ほめるためには準備が必要だというお話や、伝えるプロになる必要性についてのお話が印象的でした。子どもが思うように動いてくれないときには、自分のやり方を振り返ることが大切だと感じました。

①先生は「今日のキーワードはあたり前のことばかりだ」とおっしゃっていました。あたり前のことだからこそ大切であり、難しいのだと思います。最後の校訓については、「子どもたちにどうすれば伝わるか」必死に考えた時間となりました。

②人権教育の場はあらゆる場面なのだと思います。また、先生の話し方がとても穏やかで安心して聴くことができ、自分が教師になった時の参考になると思いながら聴いていました。

②人権とは？という根本を改めて見直すことができました。グループワークで初対面の方と意見交換するときのきき方を、普段から心がけていきたいです。参加して良かったです。ありがとうございました。

②人権教育は、難しくどうすればよいのだろう…と思っていたけれど、今日の話聞いて、人と人がかかわることというシンプルなことだと分かった。I am OK and You are OK.にとっても考えさせられた。自分も人も大切にできる大人になりたいし、そのような児童生徒に育つよう力を尽くしたいと思った。

③新任教師に対しての言葉がけがたくさんあり、自分の中で多くのことを考えさせられました。教師になってから待ちうけている困難も、これからの準備しだいで大きく変わってくると思いました。

③駅伝ランナーのように、子ども達の教育のたすきをつないでいくために、自分の軸をもつこと、教

職員と協力すること、自分の課題と向き合い、力をつけておくことを意識して残り半年を過ごしていきたいと思いました。とても貴重なお話をありがとうございました。

③教師のすばらしさ、子どものすばらしさに改めて気付かされたお話だった。〇〇先生の姿そのものが子どもを大切に思い、また強い思いをもっておられてすてきな先生だと感じた。これからのマネジメント能力がつくよう何か取り組みたいと感じた。

④ありがとうございました。スマホやネットに関する問題はニュースや新聞でもたくさん見ます。本当に難しいと感じます。でも、困っている子がいたり、その子たちを中心に新しく主体的な取組を始めたことを聞いて驚きました。上から押さえつける指導をする意識を持ちがちですが、そうではなくて、ねばり強く視点を変えて、子どもたちに向き合っていきたいと今日のお話を聞いて思いました。

④スマホが普及している現状で、具体的に、どんな取組をしていけばいいのかを考えることができよかったです。様々な人と連携協力していくことの大切さ、それを共有していく重要性を改めて感じた。ありがとうございました。

④指導する上で、生徒主体でできるようにする切り口がすばらしく、子どもをしっかりと見て、役割を与えることの大切さと、子どものパワーの大きさが分かりました。

⑤実際の地域連携や、校種別の連携における具体的な内容を聞くことができ、自分が教師の立場になって考えることでとても勉強になりました。考えるべきポイントがたくさんあって、すごく考えさせられました。

⑤学校間や地域との連携が学校教育においてとても大切な役割を果たすとわかりました。また、実際に企画をしてみることで、実践するまでの大変さも知ることができました。

⑤自分側の要望だけでなく、相手側の要望にも目を向けることができ、地域連携を行う上での手順やどのような力をつけさせたいかという視点から考えて進めていく必要があることを早い段階から知ることができて勉強になった。

【講座の運営・雰囲気】

①教師とは何か、教えるとはどういうことか、実際に現場に出ておられる先生のお話、たいへんためになりました。学校での講義と違い、一方的でない

授業スタイルも非常によかったと思います。

①とても熱い言葉で心に響くものがありました。校訓を具体的に考えることは初めてで、いい経験になりました。

①今回の講座は、1スライドごとにとりかたの人に理解したことなどについて話して、という進め方だったので内容がとてもよく理解できた。グループワークもむずかしそうだったけど、楽しく協力してできた。

②たくさん話し合う時間があったので、楽しかったです。みんなの意見を聞くことは、とても勉強になるなと思いました。

②短い時間で多くのものを学ぶことができました。グループの意見を1つにするのは難しいけれど、話し合うことがとても楽しかったです。

②学級目標を作るのが、予想以上に難しかった。しかし、グループで考えることで、様々なアイデアがでてきて、とても有意義な時間であった。

③要点をおさえ、時間をかけずスピード性を持って仕事をする大切さが分かった。特に「時間をかける事と丁寧にする事は違う」という言葉がとても印象に残り、それについて討論をする事で充実した時間を過ごせた。

③教師を目指す上での自分の課題について具体的に考えることができた。グループでも活発に話し合うことができ、学び合うことができたので、参加してみてもよかった。

③「学校」についての具体的なイメージが想像でき、教師という職業の魅力を改めて感じることができた。とても充実した時間を過ごすことができ、参加して本当によかった。

④教員として持つべき志など広い視点があったのでとても勉強になりました。ホワイトボードに書いて発表する形式は、実際に行われている授業のようでとても主体的に取り組めたように思います、リアルな学生の話が聞けて勉強になりました。

④スマホ等とのかかわり方について、子どもが自ら考えて行動する力・価値観を身に付けさせるための根本的な取組を聞くことができ、とても学びのある内容だった。また、他のグループの様々な意見もきくことができ、よかった。

④教授の小論文や集団討論で問われそうなテーマだと思いました。皆さんの多様な意見、提案が聞けて、参考になりました。

⑤話し合いで、他のグループの話もきけて、新鮮

でした。「連携」とは聞いたことはあったが、具体的な内容を深く考えることができ、よかったです。ありがとうございました。

⑤養護教諭養成課程なので、他の小学校・中学校・特支の専修の方とお話ししたり、考えを聞けたりして、新たな発想の仕方や見方ができました、とても勉強になりました。いろいろな視点から総合的に判断できるようになりたいです。

⑤小・中・高の連携について、具体的に考えたことはなかったので、グループで考えたことによって、自分の気づかなかった細かいことまで気づけて新しい視点を持てた。

【教壇へ立つことへの意欲や思い】

①お話の前にスライドをざっと見たときに、「そりゃそうだ、知っている」という感想を持ちました。しかし、実際に先生の実体験などを交えたお話を聞いたとき、スライドの内容が実感として再確認できました。「当たり前だけど大切なこと」を心得て、教師を目指したいです。素敵なお話ありがとうございました。

①常に向上心を持っていることはとても大切だと感じた。向上心を持つことで、伝える工夫や児童理解が様々な視点からできると感じた。教師はとても大変だが、やりがいのある仕事だと感じた。

①教師の先輩がその先輩方から受け取ったお話を、私たちに伝えてくださるといふこの機会には本当にありがたいものだと思えました。キーワードをいつも振り返りながら、自分の思う社会を作るために教育をしていきたいと思えます。

②学級目標のつくり方は、これから教師になったときにとても参考になるなと思いました。子どもが意識して取り組めるよう、また自ら目指そうと思えるよう、一方的に押しつけるのではなく子どもたちの意見からつくられたらいいなと思います。

②「学校はチーム」であり、心をかよわせ、人とのつながりをつむぐことは、子どもを育てる教師として、本当に大切な根幹のものだと感じました。また学級目標に自分の思いをしっかりと組み込み、子どもたちと共有できる教師になりたいと改めて感じました。

②インターンなどで考えていたことと、先生がお話してくださったことがきれいにリンクし、自分の教師になった時のイメージがふくらんだ。

③来年度から働くことをイメージし、とても大変

そうですが、素敵なこと、仲間、先輩、子どもたちがいると思うと、待ち遠しくなりました。貴重なお話を本当にありがとうございました。

③教師になって最初のうちは困ることもたくさんあるかと思いますが、たくさんの先生方にお話をうかがったり、子どもからたくさん元気をもらったりしてがんばりたいと思います。

③自分が実際に教師になったときどうすればよいかということがイメージでき、明確な視点を持つことができたため、参加して本当によかったです。今日お話ししていただいたことを胸に、まずは採用試験を乗り越えられるよう頑張りたいです。

③若い先生という視点でお話ししていただいたことで、より実感を持って考えやすかった。子どもたちの笑顔や素直さを写真やエピソードから感じ、本当にすてきな仕事だと思った。

③あと半年ほどで教師として働くにあたり、正直不安の方が大きいです。しかし、今日のお話をきいて、私だけじゃないんだと思うことができました。子どもたちの輝く笑顔の写真をたくさん見て、先生の素晴らしいお話をきいて、やっぱり教師って素晴らしい職業だなと改めて感じました。ありがとうございました。

④学校ではトラブルがたえない生徒を中心として、新しいルールづくりをしていったお話が本当に印象的でした。先生の言葉の裏にある子どもたちへの大きな愛情に感動しましたし、自分もそうなりたいと思われました。

④情報機器でのトラブルから解決への事例をあげていただくことで、より具体的に理解できた。また、そんな教育を私もしていきたいと思った。

④困っている人が一人でもいれば、見逃さない、あきらめない、放っておかないという、その姿勢を大切にしたいと思いました。

④教師の専門性についてのお話もあり、とても勉強になりました。先生のとても熱い思いが聞け、私も頑張ろうと思えました。

⑤連携を学校間でとることの必要性を感じるとともに、その難しさを知ることができました。子どもの成長や、新しく体験したことによる学びのために、教師が十分な準備をしないと、成功が難しいと思いました。

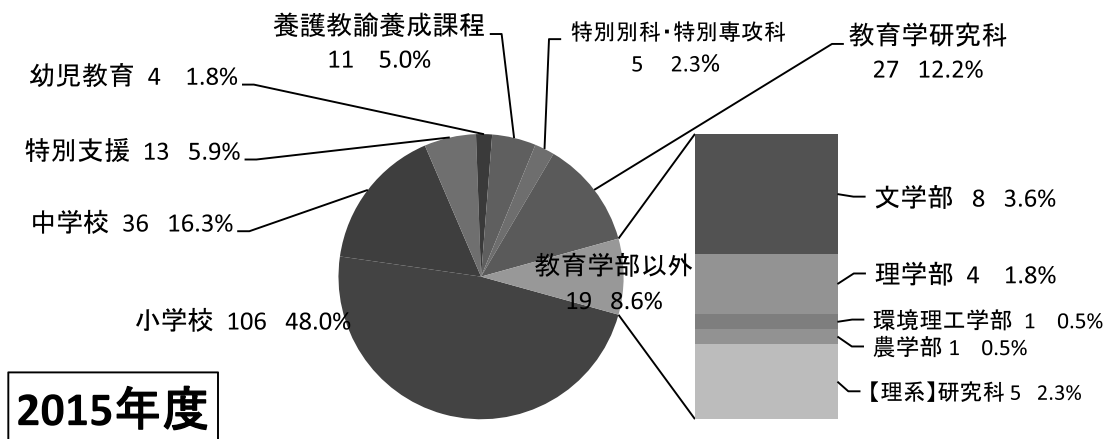
IV 受講生の所属

岡山大学教師教育開発センターは、全学部を対象にした組織であり、「教師力養成講座」には、[図3][表4]のように教育学部以外の課程認定学部の学生も参加している。課程認定学部の学生の参加者数は、次のようになっている。

◇2009年度	2%	4人
◇2010年度	9%	27人
◇2011年度	23%	41人
◇2012年度	19%	22人
◇2013年度	8%	33人
◇2014年度	9%	26人
◇2015年度	9%	19人（第5回まで）

参加学生の数は、年により、回により差が見られる。課程認定学部が8学部あり、開催の日や時間など十分には対応できにくい。しかし、開催情報が確実に学生に伝わるよう努力は引き続きしていく。広報の仕方などをさらに工夫していきたい。

[図2] 受講者内訳グラフ



〔表4〕 年度別学生の所属一覧

2015年度											2014年度												
所属	教育学部					合計	課程認定学部・MPコース										大学院					総計	
	学校教員養成課程			養護教諭養成課程	卒業生		特別支援教育特別専攻	文学部	法学部	経済学部	理学部	工学部	環境理工学部	農学部	マッピングプログラムコース	卒業生	合計	教育学研究科	【文系】研究科	【理系】研究科	修了生		合計
	小学校教員	中学校教員	特別支援教育																				
(1)	18	7	0	0	0	26	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	7	0	1	0	8	38
(2)	18	6	0	0	2	26	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0	2	0	9	43
(3)	21	10	4	2	0	47	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	0	1	0	5	46
(4)	20	6	1	0	5	32	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	0	1	0	10	46
(5)	29	7	2	2	4	44	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	48
合計	106	36	13	4	11	170	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	27	0	5	0	32	221
%	48.0	16.3	5.9	1.8	5.0	2.3	3.6	-	-	-	1.8	-	0.5	0.5	-	-	6.3	12.2	-	2.3	-	14.5	100.0

※第6回は28年1月13日に、第7回は28年2月10日に開催予定

V 成果と課題

教育現場には、いろいろな課題にしっかりと向き合い、確かに子どもを成長させている教師がいる。そこには、子どもが充実した生活を送っている学校がある。そのことを知っていることは、これから教師を目指す学生にとって、自分が目指す子どもの姿を描き、目指す教師になっていくために前進する大きな力となる。

本年度も、本講座に参加した学生の満足度は高かった。参加者アンケートの自由記述欄からも、教師を目指して前向きに取り組もうとする学生の熱い思いを読み取ることができた。お願いした講師の方々も、「これからの学校を託していく人たちのために、私にできることであれば協力します」と、短い時間の中での運営を熟考し、教材をしっかりと準備した講座運営をしてくださった。そのことが、学生の心を引きつけている。講師の方々の広く温かいお気持ちに改めて感謝を申し上げる。学生の声を大切に引き続き本講座の充実に取り組んでいきたい。

○講座の開催時期

今年の講座は、5月～8月に4回、12月～2月に3回と、前半と後半に分けて計7回の開催をした。前半の講座は、4年生の学生を受講対象の中心においた。12月からの後半の講座は、3年生を受講対象に加えて取り組んだ。教職ガイダンスでの案内、各学部掲示板へのポスター掲示、教師教育開発センターホームページへの掲載、岡大教職ナビでの情報発信等で広報を進めた。さらに、教職相談室に来室する3年生に講座を紹介して、友人への呼びかけも依頼した。本年度第5回講座の参加者は、3年生が9割を占めた。昨年の後半3回の講座でも、3年生

の割合は8～9割であり、後半講座が3年生を中心としたものになることは、定着しつつある。しかし、4月から学校現場に立つ4年生にこそ聞いて欲しい内容も盛り込んで講座を計画している。この講座の開催情報を入手するきっかけとして一番多いのが、「教職相談室での情報」であるが、採用試験を終え卒業研究に取り組んでいる4年生が、この時期教職相談室を訪れる機会は少ない。研究室への呼びかけなど4年生への広報の仕方を、さらに工夫していきたい。

○講座の開催時刻

本年度は、講座の開催を通常の授業があまり設定されていない水曜午後に固定して実施した。そのことで学生が参加しやすい面もあった。しかし、集中講義や実習の事前事後指導なども計画されることがあり、ある特定のコースの学生が参加できないということもあった。また2016年4月から、岡山大学では、60分授業・クォーター制が開始される。授業の単位時間が60分となり開講授業のコマ数も増加すると予想される。それに伴って、120分の教師力養成講座を実施できる曜日と時刻とを見つめながら、講座を実施していくことになる。次年度の検討課題の一つである。

○講座に参加できなかった学生への対応

これまでの講座の内容については、講師の先生のご厚意によりDVDとして学生に視聴できるようにしている。教育実習を始め多くの履修科目の都合で講座に参加できなかった学生には、これをさらに活用して、学びの場を広げていきたい。

○授業化に向けて

岡山大学では、教育学部を含め8学部が教職課程認定を受けており、毎年400名を超える学生が教員

免許を取得している。そうした学生に実践的指導力を確かに身につけさせるために、岡山大学では、「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」をバランスよく身につけることが「教育実践力」であると描いて、指導を進めている。これらの力を育成するために教育現場で十分な体験を行うことは、時間的にも限界がある。「教師力養成講座」は、それを補足する取組である。

現在の運営は、教職相談室が中心になって単年度ごとに計画している。学生により確かな実践的指導力を身につけさせるためには、長期的な視野も必要となる。その一つとして、本講座の授業化への移行の可能性を探っている。

2014年度、2015年度には、文部科学省の調査研究事業を受け、訪問調査、講座参加学生に対しての本講座の運営に関するアンケート調査等を進めてきた。2016年度には、120分講座の設定方法、年間講師の選定、対象とする学生の範囲等を検討しながら、本講座の授業化の可能性を探っていく。その中で、高年次教養教育科目としての授業化に向けた新たな試みにも取り組んでいく。

VI 終わりに

教師力養成講座も7年目を迎えた。各回の講座において、学校現場で活躍する教員の姿や熱い思いが確かに学生に届いていることを実感している。本講座が、学校現場に出て自分の力を発揮するための一助となれば、うれしい限りである。

本年度も、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会のご協力をいただき、講座を実施することができた。また、高塚センター長を始めとした教師教育開発センターの諸先生方・事務スタッフの方々からもたくさんのご助言とご支援をいただいた。

関係の皆様に、心から感謝申し上げます。

参考・引用文献

- ◆「教員採用数はこう動く」山崎弘敏
（「教職課程」2015年12月号）
- ◆「2014年度教師力養成講座」の概要
—実践的指導力を有する教師の育成のために—
（2015岡山大学教師教育センター紀要第5号）

Title : Outline of "A Training Course to Cultivate the Abilities Required for Teachers - Academic year 2015"

Subtitle : To Cultivate the Practical Leadership Required for Teachers

Author : Mikio BUTO^{*1}, Satomi KOCHI^{*1}, Seitaro KOBAYASHI^{*1}

Keywords : the specific examples of the efficient approach to the problems worrying teachers,

developing the practical leadership skills, the progress of our management plan for the future

※1 Center for Teacher Education and Development, Okayama University
